



FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB

藤枝南ロータリークラブ会報

例 会：毎週金曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
 E-mail: club1991@fujieda-rotary.org

会長：内山 淑夫 副会長：山田 壽久 幹事：竹田 敏和 副幹事：渡邊 博文

第1171回



■ 会長報告 内山 淑夫君

今年の国際ロータリー世界大会は韓国は一山(イルサン)にてとなります。ここのコンベンションセンターはすばらしい施設と聞いております。ここでの世界大会は一生に一度しかない記念すべきイベントです。私どもはこのためにマレーシアから韓国へと会員研修先を変更したわけですので、ご都合がつけば、いやいや万難を排して、ご参加いただきたいと思います。

マイロータリーをみますと参加の意義を5つに分けて書き連ねてありました。以下、抜粋です。

1. リーダーと出会う

K. R. ラビンドラン RI 会長をはじめとするロータリーのシニアリーダーや、その他のゲストスピーカーによる素晴らしい講演をお聴きいただけます。

2. 新しいアイデアを学ぶ

世界各地のロータリー会員、国際ロータリー職員、各分野の専門家が企画・運営する分科会に出席し、プロジェクトの立案方法、ファンドレイジング(寄付推進)、ソーシャルメディアなど、ロータリーの隅々まで学びましょう。

3. 新しい友人と出会う

友愛の家で、同じ趣味や職業、関心をもつ人たちと知り合い、クラブの枠を超えたネットワークを築く。生涯の友人との出会いがここにあります。友愛の家では、韓国料理を味わえるだけでなく、韓国の伝統文化に触れたり、韓国ロータリアンや地元企業が出展するブースで最新テクノロジーを体験することもできます。

4. 旧友との再会を楽しむ

研究グループ交換で知り合った旧友、以前に世話をした青少年交換留学生、姉妹クラブのロータリアンとの再会を楽しむ。懐かしい顔にばつ

たり会うということも、国際大会の醍醐味の一つです。

5. 異文化に触れる

地元ロータリアンから成るホスト組織委員会が企画したツアーに参加して、ソウルだけでなく、韓国内のさまざまな見どころを見学しませんか。ホストホスピタリティーの夕べでは、地元ロータリアンのほか、世界中から集まった仲間たちとの交流が楽しめます。お隣の国、韓国で世界中の文化に触れることのできる国際大会は、ロータリーならではの体験です。

47名全員が登録をして世界大会に参加いただけるよう切に願うものです。この大会がロータリー活動を深めていくきっかけになるものと確信しています。

■ 出席報告 平原 望君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
38/47 80.85%	42/47 89.36%

(1) 欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○植田君 ○梅島君 ○多々良君 ○中山君
 ○森竹君 ○望月君 ○渡辺哲君 川口君
 伴野君

(2) メイクアップ者

早川 清人君 (焼津) 森竹 正晃君 (焼津)
 梅島 純夫君 (焼津南) 望月 誠君 (焼津南)

■ スマイルBOX 平原 望君

・誕生日のお祝いありがとうございました。

中村 博史君

スマイル累計額 518,000円

小池 吉久君



我が家に伝わるお宝は、市制 50 周年記念事業のポスターに掲載された鎧・兜と具足です。正確には過去形で、現在は郷土博物館に寄贈されたものです。

子供の頃見た甲冑は、200 年の年月を経て経年劣化により色褪せ、面白半分にも着てみたいと思いませんでした。

しかし、この様にすばらしく修復されポスターに使われた物を見て、子孫として大変喜ばしく、又誇らしい気持ちでいっぱいです。

この他に、大量の古文書と戦争中の供出も逃れた、一振りの日本刀と、私は見ていませんが母親曰く、錆びた火縄銃があったようです。

子供の頃、大掃除の折日本刀を見つけ、チャンバラの真似事をしては試し切りをして、日本刀の重さを実感し、以後時代劇の殺陣のシーンに違和感を持ってしまいました。

何故、我が家にこんなお宝が伝わっているかといいますと、ご先祖が旧田中藩の下級武士であったが、たまたま、運動神経の良い子供が成長し 27 歳で小池弥左衛門敏岳として「制剛流柔術」と「天心流棒術」の「印可」を受け、藩の師範家として道場を任され、140 名余の門弟を教えたとの事でした。又、針治療の腕前も一流で在ったようです。お金に拘らない方であった様で、門弟から慕われ 3 周忌の折、門弟が墓碑を菩提寺に建立してくれ、現在も大手の源昌寺に残っております。これが田中藩武芸者の墓碑の最初で後に 5, 6 名の墓碑が立てられ、藤枝市内の神社仏閣に残っている様です。由緒書きは在りませんが、多分、身なりには金を掛けない敏岳でしたが忠義一筋の気質から、多分この頃、整えた甲冑ではなかろうかと思われます。田中藩は本多公が 138 年の長きに亘り治めておりましたが、幕末の明治元年に、安房国長尾藩（現在の千葉県館山）に移封させられ、その後明治 4 年に廃藩置県となり、藩が消滅する。上級武士と思われる半数は館山に残るが、残る半数は田中を始め全国の知人のツテを頼りに全国に。そんな中、

我がご先祖は田中に戻り、細々、日清・日露の戦争を生き延び、私の父親も陸軍のパイロットで在りましたが、太平洋戦争を運よく生き延びて生涯を終えました。

葬式も終わり四九日の納骨の折、石屋さんから生前父親より預かっていたと言う書面を渡され、後日開いて見ると、「お宝」の博物館への寄贈が書かれており一同ビックリ。

只、個人でこれ以上保管管理も無理と思われ、又母親の強い希望でも有り、書面通りに博物館に寄贈致しました。

杉山 茂範君



今年の 1 月より入会させていただきました杉山茂範です。今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は杉山茂範と申しまして、藤枝市内 高洲の兵太夫でボイラ設備業を行っています。場所は高洲中学と村上開明堂さんの間の辺りです。昭和 42 年 12 月 6 日生まれの 48 歳、血液型は A 型です。現在は会社に隣接した自宅で母と妻、そして小学校 2 年生の長男の 4 人で生活しています。

私は生まれも育ちも藤枝で、地元の高洲幼稚園、高洲小学校、そして高洲中学校と進みました。中学時代は「エースをねらえ」がブームで、それが影響していたかどうかは私自身もはっきりしませんが、みんなが入るからというようなノリでテニス部に在籍しました。もともと大会に出ても 1~2 回勝てる程度で大した戦績は残せずじまいでした。高校は地元の藤枝東高へ進みました。以前に友人と話をして何となく思い出したのですが、入学式を終えクラスの席についた時、斜め前にいたのが桑原茂君で、彼とはその時からのお付き合いということになります。蓮華寺池 10 周に岡出山の石段を 10 往復という過酷なふるい落としにも耐えテニス部に入部したのですが、如何せん勉強がおぼつかず、学業に専念しようと 1 学期で退部しました。そんな私ですから今考えれば当然の結果ですが、私が学業に専念するわけもなく、快樂に溺れ怠惰な毎日を過ごし追試と

補講三昧の高校生活でした。高校だけは周囲の友達の協力と先生の慈悲でなんとか卒業をすることができました。

大学はかろうじて引っ掛かった東京の立正大学へ進学しました。バブル絶頂期の文系大学生ですので、ろくに勉強もせずバイト、合コンに明け暮れていました。私には就職は父親の仕事の関係のボイラメーカーへという既定路線があったのですが、友人の就職活動を眺めていて自分もちょっとしてみたいなという迷惑な気持ちが頭をもたげ、いくつかの企業に資料請求をし、電話で話ただけで内定が出るようなバブルで売り手市場な世の中でした。

私が就職したのは大阪に本社のある(株)平川鉄工所という創業 104 年という老舗ボイラメーカーです。1ヶ月ほど滋賀の工場で研修を受けた後、営業として東京支店に勤務しました。働き始めた頃から若干バブルがはじけた兆しが見え始めていましたが、まだまだ良き時代で、仕事では当時話題の六本木のアークヒルズや赤坂 TBS、カルガモの池で有名な三井物産ビル、幕張メッセなどに行かせていただきました。また変わった体験で赤いじゅうたんの迎賓館へ行った翌日に府中刑務所に行ったりと、メーカーならではの貴重な体験をさせていただきました。

楽しくサラリーマン生活をしていたのですが、平成 4 年に父の体調が芳しくなくなり、藤枝に戻り家業に入ることになりました。元々は中部工業と申しまして創業は昭和 43 年 2 月ですから、ほぼ私の人生と同じです。昭和 47 年に法人化しまして、私が入社する 1 年前に 3K のイメージを払しょくしようと CI の一環として社名をカタカナにしました。もっともやっていることは相変わらずです。私が 27 歳の時に父を亡くし、会社を引き継ぎ現在に至っています。

ここからは少し仕事についてお話をさせていただきたいと思います。弊社は冒頭にも述べさせていただいた通り、ボイラを扱う仕事をしています。現在、従業員は 7 名でボイラの販売、修理、メンテナンス、附帯設備工事をメインにやっています。ボイラは中小規模のボイラを取扱っているのですが、大きく分けて蒸気と温水に分けられ、蒸気ボイラでは食品加工工場、段ボールや発泡スチロールなどの梱包資材メーカー、製薬会社、製紙会社、病院などにお世話になっています。温水ボイラでは同じく病院や、スポーツクラブ、温浴施設、宿泊施設などにお世話になっています。取扱いメーカーとしては私がお世話になった(株)ヒラカワ、日本サーモエナー、三

浦工業などを扱っています。三浦工業はご存知の方も多いと思いますが、『行列ができる法律相談所』という番組で島田紳助が CM をしていたあの「おいらはボイラ」です。あの CM はあまり快く思っていなかった同業者も多かったと思いますが、(私もその口ですけど) あまりスポットライトの浴びることのない業界があつたあの CM で陽の目を見たのは間違いなく、ボイラというと「ああ、おいらはボイラか」と言われることが格段に多く、業界としても CM 効果は絶大であったと言えると思います。もっともあの島田紳助の事件後、三浦工業のカタログやグッズの回収は本当に早かったです。

営業エリアは静岡県中部地区、主に志太榛原地区ということになりますが、ヒラカワに関しては静岡県内をとということで東は箱根・伊豆半島から西は浜名湖まで行っています。

最近の業界のトレンドとしては CO2 削減などの低公害、あるいは省エネがあります。ガス焚ボイラに関しては効率 102%あるいは 105%という潜熱回収型の高効率ボイラがかなり実績を伸ばしてきています。その一方で相変わらず価格競争も激化していて、我々もメーカーもそろそろ極限に達していると思います。またメンテナンスを商品化しメーカーが囲い込むという傾向も相変わらず強く、弊社も競合が同業他社というより対メーカーというケースが多くなってきています。我々の規模では体力勝負となったら到底勝ち目はないので、我々弱小企業がいかに強みを発揮し評価していただくかというあたりが今後のカギになってくるだろうと思ひ、日々頭を悩ませています。そんな中でメーカー主導でメーカーの収益構造の歯車になるのではなく、本来受益者であるべきはずのおお客様の立場になって誠心誠意の対応をしていくことが大切なのではないかと考えています。

最後に、ロータリークラブは藤枝で成功されている方々のクラブと感じていまして、今もそれは変わりません。私の場合、目先のことに右往左往するばかりでとてもそのレベルに達しておらず、まだ相応しくないと感じています。反面、いつか自分も会社を立て直しそれに見合う器をつくり、仲間に加えていただきたいという気持ちもありました。入会させていただきましたので、この機会に遠目から憧れで見ているのではなく、実際にお仲間に加えていただき、みなさんから直接素晴らしい刺激をいただき、少しでも自分を高めていくことができたらと思っています。未熟者でございますが宜しく願い致します。

■ 今週の一言

樽井 勉君

まだ55歳の私は健康に関して何も考えていませんが、平日の早朝は、マイナスイオンを浴びるため、星を見ながら瀬戸川沿いを散歩しています。週末は、お酒を楽しむために、朝からサウナに行き、身体を「ひからびた」状態にして行きつけのお店に行きます。昼から”おいしい”お酒を飲んで夕方帰ります。ドクターから「不健康になるよ」と言われましたが、あれから20年、いたって健康です。

★ 表彰

《ポールハリスフェロー表彰》

\$2000達成 (P-列-財団年次寄付)

江崎 直人君



藪崎 幸一君



《 米山功労賞 》

漆畑 雄一郎君



例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
3/4(金) 第1172回	同好会報告	理事会
3/11(金) 第1173回	IM報告	
3/18(金) 第1174回	IMG報告	
3/25(金) 第1175回	PETS報告	

(担当/渡邊博君)